

私は、見た

[導入]

このたび私が生まれ育ち、また牧師として仕えて来たふるさと土浦を離れることになりました。そのような中、今朝は愛する土浦めぐみ教会で説教をする機会を与えていただきました。本当に感謝しています。今日は牧師として説教を通して感謝をあらわすことができると願っています。

[聖書朗読] 黙示録 21:1～8

- 21:1 また私は、新しい天と新しい地を見た。
以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。
- 21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。
- 21:3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。
「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。
- 21:4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。
もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しきもない。
以前のものが過ぎ去ったからである。」
- 21:5 すると、御座に座っておられる方が言われた。
「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。
「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」
- 21:6 また私に言われた。
「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。
初めであり、終わりである。わたしは渇く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。
- 21:7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。
わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。
- 21:8 しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、
火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」

[私は見た]

黙示録はご存じのように、使徒ヨハネが福音のゆえに捕らえられ、幽閉されたパトモスという島で見た幻を書き記したものであります。

教会が爆発的に増え広がっていた1世紀末。同時にローマ帝国による迫害が、日ましに厳しさを増す中で記されたのがこの黙示録でありました。

私たちが生かされている日本の社会、或いは世界の現状も、日増しに厳しさが強まっているように思われます。ヨハネが囚われの身となり自由を失っていたように、私たちもまたいろいろなものに縛られ不自由さを感じる事があります。

しかしそんなヨハネが、終末の世界を見ることとなります。ヨハネが見たものそれは主イエスキリストが行われる終わりの日のさばきについてでありました

21:1 また私は、新しい天と新しい地を見た。
以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

最後の審判が行われる。最後の戦いが行われ、サタンが完全に滅ぼされる。そのようにして終末の時代が最後にたどり着く先に見えてきたもの。

ヨハネは、それを新しい天と新しい地であったと書き記すのであります。さらにヨハネはそこで新しい天の都、新しいエルサレムを見るのです。

21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。

聖なる神の都と呼ばれるエルサレム。けれども、この町は長年に渡り争いの場となり、悲しみ、痛み、苦しみの満ちた都でもありました。しかし、ヨハネが見たものは新しいエルサレムでした。キリストを裁き、葬った地上のエルサレムではない。神のみもとから、くだってくる新しいエルサレムなのです。

新しい天と新しい地。そして新しいエルサレム。このあと私たちはヨハネと共に2つの世界を見る事となります。2つの世界とは、ある世界とない世界。

[神の幕屋がある]

21:3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。
「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、
人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。」

ヨハネが見たある世界。それは神の幕屋が人々と共にある世界です。聖書の中において神殿と共に神の臨在をあらわす場所。それが幕屋であります。

出エジプトの旅以来、神の民イスラエルはこの幕屋を礼拝の場所として定めてきました。土浦めぐみ教会は神の幕屋を指し示すものであります。神を礼拝し、神に祈りそして神を賛美する場所。それがめぐみ教会という神の幕屋です

もちろん地上における幕屋は不完全であり、未完成でもあります。私たちは、このめぐみ教会の礼拝においても魂の叫び声を挙げます。自らの罪深さ、弱さ足りなさのゆえにうめき、苦しむことがあります。

それでも私たちはうなだれ、気持ちが沈み込むことで終わりません。なぜなら私たちは完成を目指す途上にあるからです。

ヨハネが見たものは天にある完全な幕屋です。紛れもなく神さまがそこにおられる。いや私たちと共におられる完成された幕屋です。新しい天と新しい地。新しい天の都を目指して歩む途上に私たちはいま、置かれているのです。

[すぐに来る]

そしてもう一つ。ヨハネが見たものは、このようなある世界と同時にない世界でもあります

21:4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。
もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。
以前のものが過ぎ去ったからである。」

ヨハネが見た新しい世界は死のない世界です。悲しみも、叫び声も、苦しみもない世界です。なぜなら、神が涙をことごとくぬぐい取って下さるからです。

私たちはこれまで、多くの涙を流してきました。
私たちはどれだけ悔し涙を流してきたことでしょうか。
人から受けるあざけりやひどい扱いによって涙したこともあったでしょう。

そして、これからもまた私たちが涙を流す出来事がやってくるのです。

土浦めぐみ教会は、恵みにあふれ、祝福にあふれ、喜びにあふれた教会です。
けれども同時に教会は多くの涙を流してきたことも事実なのです。

私たちは昨年も多くの神の家族を天に送ってきました。
愛する者を失う悲しみを私たちは目の当たりにしてきました。

地上の営みは限りがあります。肉体も健康も限界があります。そして、私たちもまた、やがて必ず死を迎えなければなりません。死の苦しみを味わわなければならない。そして別れの涙を流さなければなりません。

ヨハネもまた悲しみを知る信仰者の一人でした。迫害の中で失われていった命ヨハネ自身もまた迫害によって捕らえられ島に幽閉され自由を奪われていく。流れ落ちる涙を止める事ができない。悲しみや苦しみをなくす事もできない。

しかしヨハネは見たのです。死も、悲しみも、苦しみもない世界を見たのです

私たちは今、何を見るのでしょうか。どこに視線を向けるのでしょうか。ヨハネが見たものを私たちもまた見る必要があるのではないのでしょうか。

[ヨハネが見たもの]

- 1:1 イエス・キリストの黙示。神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。そしてキリストは、御使いを遣わして、これをしもべヨハネに告げられた。
- 1:2 ヨハネは、神のことばとイエス・キリストの証し、すなわち、自分が見たすべてのことを証した。

黙示録を開いて、私の目に最初に飛び込んで来るのは、ヨハネが見たすべてのことを証したという言葉です。

ヨハネは、神のことばとイエス・キリストの証しを聞いたというのではない。神のことばと証しを見たと書かれているのです。私はこの土浦めぐみ教会で生まれ育った者の一人であります。そして私は教会が見せてくれる様々なものを見ながら育ってきたのであります。

開拓当初から変わることなく誠実に真剣にささげられる礼拝を見て来ました。また神さまのため教会のため奉仕に励むたくさんの聖徒たちを見て来ました。

真実な祈りや献金がささげられるのを見ました。また洗礼式や聖餐式に与る者たちの喜びの姿を見ました。

私がまだ幼い時から、めぐみ教会は実に多くのものを見せてくれました。その見たものを通して私は目に見えない神さまがおられる事を信じました。目の前で行われる出来事の背後で働かれる神さまの力を信じました。

それは今も変わることがありません。この土浦めぐみ教会が見せてくれるものそれらを通して大人も子どもたちも神さまの存在を知り、神さまに信頼する事のすばらしさを体験し続けているのです。

そして今私たちは使徒ヨハネがそうであったように将来に渡る神さまの計画を見ることができるのです。

21:1 **また私は、新しい天と新しい地を見た。
以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。**

ヨハネは、1世紀末のローマ帝国迫害の激しい時代に生きた信仰者であります。しかし、その時代に生かされつつ、ヨハネは終わりの時代の幻を見たのです。新しい天と地が現れ、新しいエルサレムが到来するのを見たというのです。

私たちもまたヨハネと同じように信仰をもって霊的な目を開いて見るのです。神さまが造られたこの世界が新しく造り変えられていく。以前のものが過ぎ去り、新しい天と地が再創造されていく。

ヨハネは迫害の中、失われていく命、倒れゆく教会が見えた事でしょう。しかしヨハネは顔をあげ、神さまの確かな約束とその成就を見たのです。

土浦めぐみ教会の現実はどうでしょうか？もしかしたら、そこに悲しみの涙が流れ落ちている。様々な問題や痛みの中で苦しむ魂がいるのかもしれない。しかし、私たちはうなだれてひざをつくだけで終わらないのです。信仰をもって顔を挙げ、目をあげていく時に私たちは見るのです。

神のことばとその成就がなされていくことを見ることができる。
神のご計画が困難な時代を乗り越えて実現するのを見ることができるのです。

[事は成就した]

21:6 **また私に言われた。**

「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。わたしは渇く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。

ヨハネは確かに聴きました。アルファでありオメガであるお方、初めであり、終わりであるお方。そのお方が事は成就したと言うのを確かに聴いたのです。

ローマ帝国の迫害もヨハネの悲しみもまだ終わっていません。現実の苦しみが続いているにも関わらず、でも事は成就したと言うのです。なぜでしょうか？それは神さまのご計画とみわざが必ず実現するからなのです。

それゆえ、これから起こるであろう終末の時代、その終末の時代の最後に用意された新しい天と地をヨハネは見たと言うのです。将来見ることになるというのではなく、いつか見る事ができるだろうでもない。

ヨハネはこの時、確かにそれを見たと言うのです。そして神さまは事を成就したと言われるのです。

私が土浦めぐみ教会を離れるにあたりみなさんにお伝えする事がこれです。時間を超え、時代を超え、物理的な距離さえも超えて見る事のできる信仰。それが私たちに与えられた確かな信仰である事を私は証したいと思います。

● 祈り 黙示録

21:5 **すると、御座に座っておられる方が言われた。**

「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。

「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」

神様、土浦めぐみ教会が見る事のできるもの。ヨハネと共に見る事ができるもの。それを私たちはこの朝、信仰をもって、霊的なまなざしを通して見る事が出来ます。

ヨハネがローマ帝国の中でうめき、嘆き、痛み苦しんだように、私たちもまた目の前の現実ゆえに叫ばずにはいられないときがあります。

しかし主よ。あなたは真実であり、信じて間違ふことのない唯一のお方です。土浦めぐみ教会のこれからを、また滅びに向かっているこの世界をも導かれるお方です。

あなたは新しい天と地を創造されるお方。新しい神の都、新しいエルサレムを与えてくださるお方です。そのあなたとこれからも歩む私たちとさせて下さい。あなたこそが私たちの救い主であり、王の王、主の主であることを告白します。これからも土浦めぐみ教会が、主を告白する群れとして、神の約束を待ち望む群れとして、主の約束の成就をしっかりと見続けることができますように。

インマヌエルの神、再び来られる主、私たちの主、めぐみ教会の主、イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン

● 祝祷

土浦めぐみ教会の主、イエス・キリストの恵みと新しい天と地を造られる父なる神の愛と世の終わりまで我らを導く聖霊なる神の導きが救い主の到来を待ち望む一人一人の上にまた土浦めぐみ教会の上に豊かに限りなくありますように。アーメン